広報 つちうら 2021 11 No.1302
発行／土浦市　編集／市長公室広報広聴課
発行日／令和3年11月2日
人口と世帯数／（令和3年10月1日現在）
13万7803人　6万1971世帯

第8回 土浦の花火大会とジオの関わり

知って楽しむ！筑波山地域ジオパーク

今年は残念ながら中止となってしまいましたが、土浦の花火大会は全国から大勢の方々が観覧に訪れる、一大イベントです。今回は、この花火大会とジオとの関わりについてご紹介します。

土浦の花火大会

毎年秋に開催される「土浦全国花火競技大会」。全国有数の花火大会として知られ、スターマインの部、10号玉の部、創造花火の部の3部門で、花火師が内閣総理大臣賞をはじめ、権威ある賞を競います。令和7年には100周年を迎える、歴史ある花火大会です。

花火大会の歴史

第1回の花火大会は、大正14（1925）年に開催されました。文京町にある神龍寺の住職、故秋元梅峰が組織した大日本仏教護国団が主催しました。開催の趣旨には、大正11年に開設された霞ヶ浦海軍航空隊殉職者の慰霊、不況にあえぐ地元商店街の復興などが挙げられていました。戦前は昭和15（1940）年の第13回までが開催され、戦後は昭和21（1946）年から現在に至るまで、連綿と続けられています。

霞ヶ浦海軍航空隊

花火大会開催の趣旨に挙げられていた霞ヶ浦海軍航空隊は、大正10（1921）年に開設された臨時海軍航空術講習部が翌年に独立したもので、当時の最新兵器である飛行機のパイロットを育成する航空部隊です。霞ヶ浦海軍航空隊が現在の阿見町に設置された背景には、霞ヶ浦の存在が挙げられます。

かつて海だった霞ヶ浦は、江戸時代の利根川東遷（付替工事）によって環境が激変します。東京湾に流れていた利根川が、現在の流路を通って太平洋に注ぐようになり、大量の土砂が河口に堆積することになりました。このことによって、霞ヶ浦と太平洋との出入り口が狭くなります。その結果、内湾だった霞ヶ浦は、波の少ない湖となりました。航空隊設置の背景には、普通の飛行機（陸上機）だけでなく、水面に離着陸する「水上機」の訓練が可能な自然環境があったのです。加えて、江戸時代以来の水上交通、明治20年に開通した常磐線という、水陸双方の交通の要衝である土浦に近く、利便性が高いことも重要だったと考えられています。

霞ヶ浦海軍航空隊の玄関口、「空都」としてにぎわった土浦で、今日まで続く花火大会が開催された背景には、霞ヶ浦という自然があったのです。

海軍航空隊の搭乗員たち
出典『むかしの写真・土浦』

霞ヶ浦海軍航空隊と土浦
出典『街の記憶―空都土浦とその時代』

もっと知りたい！という方へ

筑波山地域ジオパーク ホームページ▶

お問い合わせ
商工観光課
（☎826-1111　内線2705）
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
（☎826-7111）

〒300-8686　茨城県土浦市大和町9番1号
☎029-826-1111（代表）
HP　https://www.city.tsuchiura.lg.jp/
MAIL　info@city.tsuchiura.lg.jp

広報つちうらは、ホームページからもご覧いただけます▶

本号は、10月14日（木）時点の情報をもとに作成しています。最新情報は、問い合わせいただくか、ホームページなどをご確認ください。
次回「広報つちうら」11月中旬号は、11月16日（火）発行予定です。